

祈りを紡ぐ

作家対談

祈りを紡ぐ — 書と写真のコラボレーション + チェンソーアート展

題字・菊田翠谷 / 写真・李秉用

津波による惨害にいまなお苦しむ気仙沼に生を受けた書道家。「この世の悲しみに喜んで関わる人」として東北沿岸の被災者と寝食をともにした韓国の写真家。和と韓のアートが奏でるこの祈りの響振を、わたしたちは東北の震災を世界に開き、希望を生み出しつづける、アートによる復興に向けた第一歩にしたいと考えています。

2011.3.11、未曾有の大災害から半年を経過した今、わたしたちは新たな言葉を紡ぎ出す時期を迎えています。犠牲となった方々への鎮魂を出発点に、この祈りから、どのような一歩を踏み出せるか、みなさまと共に考える機会となればと思います。

日時： 2011年10月24日(月)、25日(火)

入場無料・参加自由

場所： せんだいメディアテーク・1F オープンスクエア + 定禅寺通メディアテーク前緑道

10/24 (月)

11:30~ チェンソーアート制作実演

@定禅寺通り緑道

栗田宏武ほか

(いちほら自然楽校/チェンソーカーヴァー)

14:00~ 作家対談「作家の目を見た東北の未来」

@1F オープンスクエア

菊田翠谷 (気仙沼/書道家)

李秉用 (韓国 / 写真家)

栗田宏武 (前掲)

10/25 (火)

14:00~ シンポジウム

「アートによる復興地域づくり」

@1F オープンスクエア

「アートのトリエンナーレのねらいと役割、今後の方向性」 五十嵐太郎

「被災地の民俗芸能と復興への道すじ」 橋本 裕之

「南三陸町でのアートによる地域活動について」 吉川 由美

「地域の特色を活かした復興支援と協会のアート支援活動」 山下 三郎

「大館の『まち育て』実践事例とアートでの復興」 北原 啓司

「哲学カフェのねらいと復興のあり方」 西村 高宏

コーディネーター 志賀野桂一

出展者・講演者プロフィール

菊田 翠谷 Suikoku Kikuta

書道家。本吉町大谷（現気仙沼市）生まれ。加藤翠柳、大沢雅休に師事。
宮城県国際美術交流会会長。中国・北京工芸美術学会理事。宮城県芸術協会理事・参事など歴任。
地域文化功労者文部科学大臣表彰、宮城県教育文化功労者表彰、聖グレゴリオ教皇騎士勲章受章など多数。

李 秉用 LEE Byung yong

写真家。韓国チュンチョン生まれ。
ウォンブン化学（株）勤務ののち、日本東京工芸大学写真学科卒業、日本東京工芸大学写真学科研究課程修了。
東日本大震災後、被災地の写真を撮り続け、写真小冊子「地球はひとつ」の発刊に関わっている。

栗田 宏武 Hiromu Kurita

チェンソーカーヴァー。香亜奈工房代表。特定非営利活動法人いちほら自然楽校校長、特定非営利活動法人河口湖自然楽校理事。
高いレベルを持つ、国内でも有数のログビルダーであるとともに、「チェトウインド・インターナショナル・チェンソーカービング・チャンピオンシップ」3連覇達成など、チェンソーカーヴァーとしても世界的に活躍中。

五十嵐 太郎 Taro Igarashi

建築史・建築批評家。東北大学教授、せんだいスクール・オブ・デザイン教員を兼任。
第11回ベネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館展示コミッショナー、あいちトリエンナーレ2013の芸術監督。
著書に『終わりの建築／始まりの建築』（INAX出版）、『美しい都市・醜い都市』（中公新書ラクレ）ほか多数。

橋本 裕之 Hiroyuki Hashimoto

盛岡大学文学部教授。専門は演劇学・民俗学。
主な研究テーマとして、古代・中世芸能の精神史的研究、民俗学・民俗芸能研究の思想史的研究など。
著書に『演技の精神史-中世芸能の言説と身体』（岩波書店）、『民俗芸能研究という神話』（森話社）など。

吉川 由美 Yumi Yoshikawa

プロデューサー、演出家。宮城大学非常勤講師。有限会社ダ・ハプランニング・ワーク代表取締役など。
コンサート・演劇・ダンスなどアートイベントのプロデュース・脚本・演出、各地の文化ホールの運営を手がける。東日本大震災で町の69%の住宅が流失した南三陸町で全国のさまざまな支援をつなぐとともに、復興に向けた心の支えとなるプロジェクトを展開中。

山下 三郎 Saburo Yamashita

NPO法人とうほくPPP・PFI協会理事、文化事業委員長。
工業意匠・地域デザイン計画を通して、東北・北海道各地と深い信頼関係で結ばれている。

北原 啓司 Keiji Kitahara

弘前大学教育学部教授。教育学部副学部長、地域共同研究センター教授などを兼任。専門は都市計画、コミュニティ・デザイン。
「まち育て」をキーワードに、住民参加ワークショップや商店街活性化などの活動を行っている。著書に『中心市街地活性化と持続可能なまちづくり』（共著、学芸出版社）、『対話による建築・まち育て—参加と意味のデザイナー—』（共著、学芸出版社）など。

西村 高宏 Takahiro Nishimura

東北文化学園大学医療福祉学部准教授。専門は臨床哲学。
〈対話〉という営みなどをとおして哲学的な知の社会的接続の可能性を問い直す。哲学以外の研究者やさまざまな職業従事者と連携し、医療や看護、福祉、科学技術、政治、アートなどのうちに潜む哲学的な諸問題を読み解く活動（哲学カフェ）を行っている。

志賀野 桂一 Keiichi Shigano

東北文化学園大学教授 総合政策学部長、東北大学特任教授（客員）
文化経済学会、日本アートマネジメント学会に所属。